

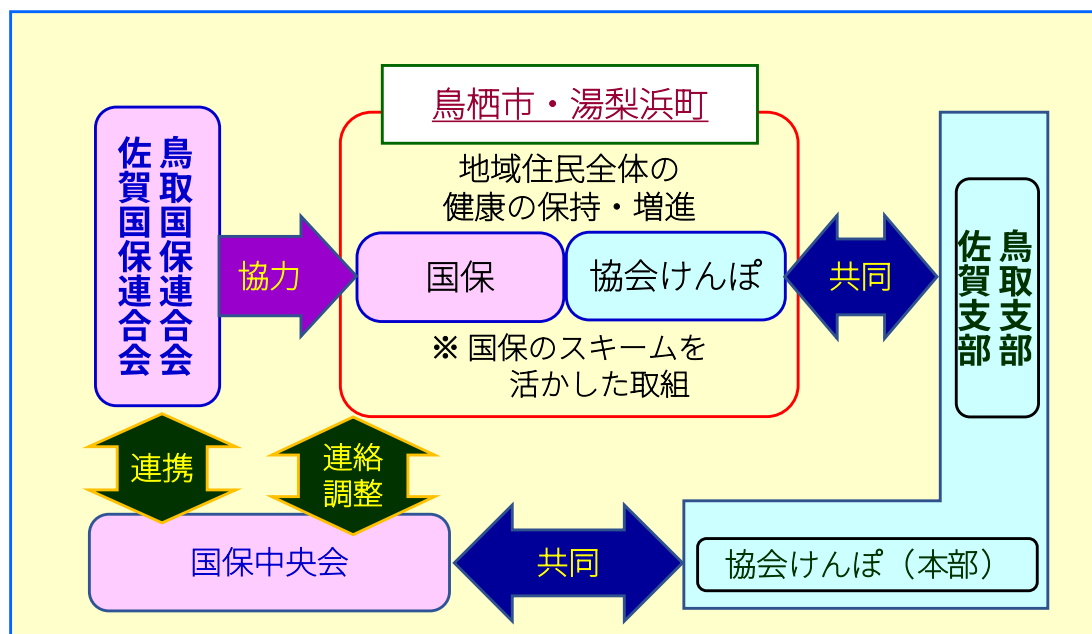
市町村国保と全国健康保険協会（協会けんぽ）が共同して進める
健康づくりモデル事業
報告書（概要）
＜協力・連携・助けあい・そして新たな健康社会を目指して＞

令和7年10月
国民健康保険中央会
全国健康保険協会

1. モデル事業の実施状況

- 将来的に医療保険制度の枠を超えて地域保険と被用者保険が連携した生活習慣病予防や健康づくりの取組、ひいては地域住民全体の健康度の向上に向けた施策の全国的な推進のための検討に資することを目的として、国保中央会と協会けんぽでは、佐賀県鳥栖市と鳥取県湯梨浜町において令和5年度・6年度の2年間にわたり、市町村国保と協会けんぽとの連携による「健康づくりモデル事業」を実施した。
- 地域住民を対象とした生活習慣病予防・健康づくりを、市町村国保と協会けんぽがハイリスクからポピュレーションまでを対象に共同で進める全国初の試みである。
- 事業を通じて、住民全体の「健康の保持増進（健康寿命の延伸）」及び「医療費適正化」を目指した。

モデル事業スキーム



モデル事業を実施した自治体

- 佐賀県鳥栖市
- 鳥取県湯梨浜町

期待される成果

被用者保険と地域保険が連携した予防・健康づくりの取組の枠組みづくりの検討
地域住民全体の健康度の向上に向けた施策の全国的な展開の可能性に向けた検討

事業のねらい

- ①市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽ間の協力・連携
- ②事業の効果的・効率的な運営内容・方法、課題への対応方策
- ③市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽが連携した効果的なデータの活用のある方
- ④中長期的な効果検証のある方
- ⑤地域の生活習慣病予防・健康づくりへの貢献

取組のポイント

1. 同じ地域の住民であっても、国保加入者と協会けんぽ加入者の年齢構成は大きく異なっているため、両者のデータを合算してカバー率を高めた分析を行うことにより、地域全体の健康課題の把握を行った。
2. その結果を踏まえ、共同でポピュレーションアプローチの取組を企画・実施した。
3. 協会けんぽ被扶養者を対象に、モデル市町の保健事業の実施体制・ノウハウ等を踏まえ「特定保健指導の利用勧奨」等も加えたハイリスクアプローチの一連のプロセスを共同実施した。《全国初の取組》

2. (1) 佐賀県鳥栖市の取組

モデル事業の概況

- 佐賀県鳥栖市では、若い世代の特定健診受診率が低く糖尿病リスクが高い状況にある。医療費は全国に比べ非常に高い水準にあるため、若い世代からの重症化予防に向け協会けんぽと共同して以下の取組を実施した。

国保と協会けんぽの健診データ等を用いた健康課題の把握と共有

- 国保と協会けんぽの健診データ等を用いて、地域における健康課題を把握し、共有した。健康課題を踏まえて、取組が実施された。

ハイリスクアプローチ

- 協会けんぽの被扶養者に対して、市の保健師又は管理栄養士が訪問等により、特定保健指導及び医療機関未受診者に対する受診勧奨を実施した。実施に際しては、鳥栖市と協会けんぽの間で、業務の仕様や単価を協議した上で、業務委託契約を締結した。対象者リストは協会けんぽより市に提供。
- 期間中の特定保健指導の対象者18人、うち全員が指導を終了した。
- 期間中の医療機関受診勧奨の対象者23人、うち概ね7割が医療機関を受診した。

ポピュレーションアプローチ

- 鳥栖市長が健診の大切さを訴える動画に出演し、市役所内デジタル掲示板やSNSで配信。
⇒市の通常の広報動画の3倍の視聴があった。
- 令和6年8月11日(日)には、サガン鳥栖の試合前にサッカースタジアムのビッグビジョンにて放映するとともに、スタジアム前の都市広場で健幸フェアを実施し、健診受診の啓発を行った。
⇒動画については、鳥栖市居住者の9割が「良かった」「どちらかといえば良かった」と回答。(来場者アンケート結果)



【人口】総人口：74,196人
国保被保険者数：12,711人
協会けんぽ被保険者・被扶養者数：27,617人(令和5年3月時点)
【面積】71.72km²

国保と協会けんぽのデータ等から見た鳥栖市の健康課題

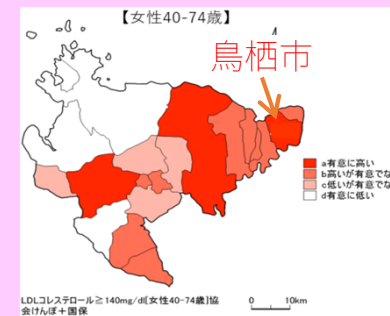
県の状況	<ul style="list-style-type: none"> HbA1c6.5%以上の割合は、男女とも全国に比べて非常に高い。 運動習慣は男女ともに低い。
市の状況(県内比較)	<ul style="list-style-type: none"> 医療費(地域差指数)が全国に比べて非常に高い。 40代50代の特定健診受診率低い。 HbA1cが高い人の割合が、他地域と比べて非常に高い。

鳥栖市における国保と協会けんぽのデータを統合した分析と健康課題の把握

- 健診項目のリスクについて、市町村国保と協会けんぽのデータを統合し、分析ツール※を活用して県全体該当率と市町該当率を比較し数値化(標準化該当比算出)して分析。両者の有意差を検定してマッピング(※ 国立保健医療科学院・横山先生開発ツール)。

分析結果の例

LDLコレステロール ≥ 140 mg/dl



健康課題の把握

	佐賀県鳥栖市
県の状況(全国比較)	<ul style="list-style-type: none"> HbA1c6.5%以上の割合は、男女とも全国に比べて非常に高い。 運動習慣は男女ともに低い。
市町の状況(県内比較)	<ul style="list-style-type: none"> 医療費(地域差指数)が全国一高い。 空腹時血糖≥ 126mg/dlの割合は、他地域と比べて高め。 若い世代から健診受診率が低い。

ポピュレーションアプローチの取組状況

《健康診査の受診誘導の動画》

糖尿病が全国
トップクラス
…?!

健診で健幸を!

☆庁内デジタルサイネージ掲示板、SNSで発信

《動画のQR》



《健幸フェアと動画放映(令和6年8月11日(日))》



来場者アンケートでは、鳥栖市居住者の9割が「良かった」「どちらかといえば良かった」と回答。

2. (2) 鳥取県湯梨浜町の取組

モデル事業の概況

- 鳥取県湯梨浜町では、血糖・血圧・脂質いずれも全国平均よりリスクが高く、男女ともに運動不足の傾向にあるため、町を挙げたスポーツ運動振興、健康づくりが進められてきた。本事業では、以下の取組を実施した。

国保と協会けんぽの健診データ等を用いた健康課題の把握と共有

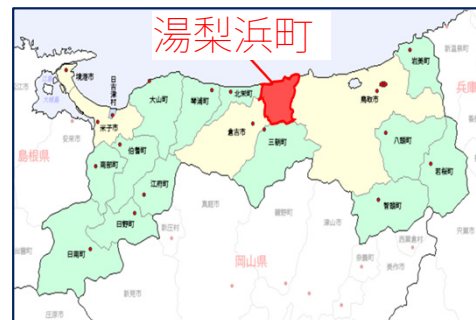
- 国保と協会けんぽの健診データ等を用いて、地域における健康課題を把握し、共有した。健康課題を踏まえて、取組が実施された。

ハイリスクアプローチ

- モデル事業を通じて、協会けんぽの被扶養者に対する町保健師又は管理栄養士の訪問等による特定保健指導を実施した。実施に際しては、鳥栖市と協会けんぽの間で、業務の仕様や単価を協議した上で、業務委託契約を締結した。対象者リストは協会けんぽより町に提供。
- 期間中の特定保健指導の対象者は15人、うち概ね7割が指導を終了した。

ポピュレーションアプローチ

- 湯梨浜町版の「地域・職域連携推進会議」（職能団体、商工会などが参加）を設立し、保健事業の共同実施を進めた。
 - ⇒ 従業員の健康意識の向上、生活習慣の改善につながった。
 - ⇒ 血管の状態が良好な者の割合が令和5年度から令和6年度にかけて増加した。
- 町内事業所が町の健康づくり事業に加わったことにより「ゆりはまヘルシーくらぶ」の会員数が増加するとともに、様々な健康づくりイベントの実施につながった。
 - ⇒ 町主催のヘルシーくらぶ会員の増加306人（令和6年）のうち、協会けんぽ加入事業所の従業員数は235人。



【人口】総人口：16,055人

国保被保険者数：3,805人

協会けんぽ被保険者・被扶養者数：7,099人（令和5年3月時点）

【面積】77.93km²

国保と協会けんぽのデータ等から見た湯梨浜町の健康課題

県の状況

- 国保において、血糖・血圧・脂質いずれも全国平均よりリスクが高い。
- 運動習慣は男女ともに低い。

町の状況
（県内比較）

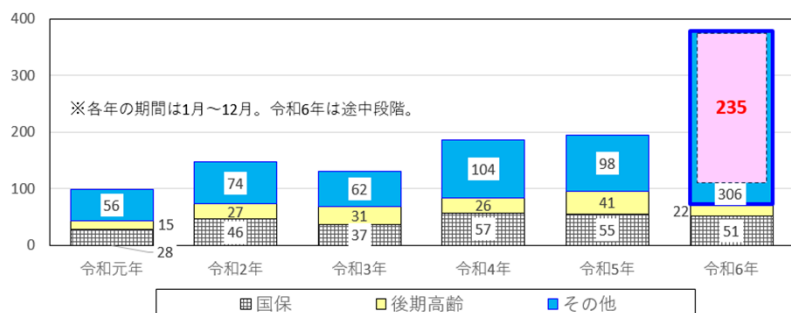
- 空腹時血糖 $\geq 126\text{mg/dl}$ の割合は、他地域と比べて高め。
- 男性は脂質リスク、女性は血糖リスクが高い傾向がある。

湯梨浜町では、地域保険と職域保険を担う組織が連携した湯梨浜町版の地域・職域連携推進会議を設置

- 同会議は、住民と健康づくりをつなぐプラットフォームとして機能。湯梨浜町と鳥取県国保連合会が共同で推進会議の事務局を担当。
- 国保連合会が、全体の企画・運営を実施し、町内関係者との調整を湯梨浜町が担当し、協会けんぽ鳥取支部も構成メンバーとして参加。
- 連携推進会議（モデル事業実施期間中に合計6回開催）には、協会けんぽ本部、国保中央会も参加して、適宜アドバイスや情報提供。

ポピュレーションアプローチの取組状況

ゆりはまヘルシーくらぶの会員数の推移



- 町主催のヘルシーくらぶ会員の増加306人（令和6年）のうち、協会けんぽ加入事業所の従業員数は235人。
- 湯梨浜町地域・職域連携推進会議を設置して、生涯を通じた生活習慣病対策を推進。
- 令和5・6年度において町内事業所の健康測定・健康相談会を実施し約200人参加。

湯梨浜町地域・職域連携推進会議



3. モデル事業で達成できたこと

- モデル事業の令和5・6年度の実施内容を通して達成できたことを「当初のねらい」に沿って整理すると、以下の通りである。

当初のねらい		達成できたこと
【項目】	【内容】	
①市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽ間の協力・連携	医療保険者の枠組みを超えた、生涯を通じた疾病予防や健康づくりに資するための関係者間の協力や連携のあり方を検討・提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施市町と協会けんぽ支部の間で何度も協議を重ねることで、相互の連携を深めることができた。国保中央会、連合会や協会けんぽ本部も健康課題の把握や進捗確認の会議などを通じて、情報共有・連携を図った。 ● また、鳥栖市では市が行っている健康課題分析のための学習会に協会けんぽ支部職員が参加するなど接点を深めたほか、湯梨浜町では湯梨浜町版の地域・職域連携推進会議を設置して、地域保険や職域保険を担う組織も構成メンバーとして参画し、関係機関が連携した取組を重ねた。
②事業の効果的・効率的な運営内容・方法、課題への対応方策	特定健診・特定保健指導、重症化予防等の事業の効果的・効率的な運用内容や方法、その他諸課題への対応方策等を検討・提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業の協会けんぽとの個別契約により、市町村が対象者リストを入手できるため、青壮年期からの積極的な早期介入が可能となった。 ● また、健康課題の把握から特定保健指導や重症化予防に至るハイリスクアプローチ及び共同したポピュレーションアプローチまで一体的な実施について、モデル事業の実施を通し、はじめて一定の標準的な手順を構築することができた。 ● 市町村国保におけるこれまでの指導方法と同様に、対象者一人ひとりの状況に合わせた教材や個人別カルテを作成して説明するなど、特定保健指導の実施率を高める効果のある工夫を収集することができた。
③市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽが連携した効果的なデータの活用のあり方	将来的に市町村、都道府県単位での医療費適正化を目指した効果的・効率的なデータの連携や活用のあり方等を検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 公表されているNDBオープンデータを活用したり、市町村国保と協会けんぽの保有するデータなどを持ち寄り、市町村国保と協会けんぽの構造の違いの比較や共通リスクを確認するなど、地域の健康課題の把握を行うことができた。 ● 双方のデータを合算してカバー率を高めたデータを共同で分析することができた。
④中長期的な効果検証のあり方	地域の健康課題の把握から、地域及び職域における、ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチ等の事業を通じて、中長期的な効果検証のあり方を検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 市町村国保と協会けんぽのデータを統合して、健診項目のリスクについて自治体の標準化該当比を算出する（都道府県内における自治体のリスク度合いの評価）検証を行うことができた。これを経年的に行うことで、地域の健康状況の傾向を分析することが可能となる。 ● 国保中央会では、他の保険者から国保への異動による影響について、KDBデータを基に分析の方向性を検討することができた。
⑤地域の生活習慣病予防・健康づくりへの貢献	地域の資源や既存事業のスキーム等の有効活用による、生活習慣病等の発症予防、地域住民全体の健康づくりに資する方策を検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 2市町のハイリスクアプローチでは、既存の国保事業で培った手法（一人ひとりの状態に合わせた説明資料・カルテ作成や生活状況に合わせ訪問実施）等住民に寄り添った丁寧な対応により、受け入れ良好な効果的な取組が実施できた。また、協会けんぽ被扶養者への指導実施に伴う手順や留意事項の確認を行うことにより、他の市町村への横展開を行うことが可能となった。 ● ポピュレーションアプローチについては、全世代にわたる取組を実施することができた。